

## 第 17 回若手の集いを終えて

実行委員長 山中 真也\*

降水確率 50% (数値は私の記憶) の平成 29 年 5 月 31 日 (水) に、第 17 回若手の集いが京都市中京区の「先斗町いづもや」で開催されました。ご参加の皆様 (41 名) に心より御礼申し上げます。

気象庁のホームページによると降水確率とは、

- ✓ 予報区内で一定の時間内に降水量にして 1 mm 以上の雨または雪の降る確率 (%) の平均値で、0, 10, 20, …, 100% で表現する (この間は四捨五入する)。
- ✓ 降水確率 30% とは、30% という予報が 100 回発表されたとき、その内のおよそ 30 回は 1 mm 以上の降水があるという意味であり、降水量を予報するものではない。

だそうである。つまり 100 回開催すれば、およそ 50 回は雨が降り、それが雷雨であっても何ら不思議はない… だいぶ無理があるか…。

さて、“海水” をキーワードとしたあらゆる垣根を越えた交流、若手会創立 10 周年、京都らしさ、の 3 つのテーマに設けて企画し、天候【本誌 69 巻 3 号「日本海水学会若手会第 6 回学生研究発表会を終えて」、本誌 71 巻 3 号「日本海水学会若手会第 8 回学生研究発表会を終えて」参照】を心配しながら実施しました。ご参加の皆様、いかがでしたでしょうか？

いつも若手会をご支援くださっている東郷育郎様 (サンアクティス) のご発声で始まり、41 名の若手研究者・

技術者の方々、学生の皆さんと交流を深めました。多くの観光客が見守る鴨川の納涼床 (写真 1) で、雷雨に見舞われるまでのほんの少しの時間、「これぞ京都」を感じ、お楽しみいただけたことと思います。交流の場が店内に移動した後も、これまでの若手会を振り返り、尽力されてきた方々に感謝するとともに、これからのあり方を議論しました。最後に、若手会会長の松本真和先生 (日本大学) から締めめの挨拶と、松本先生の跡を継いで本年 7 月 1 日より若手会会長を拝命する (した) 私の紹介でお開きとなりました。

今回の若手の集いにおいても、日本海水学会の皆様をはじめ、多くの方のご支援を頂きました。若手会会員の皆様、とくに (公財) 塩事業センター海水総合研究所の中村様には、実施にあたり多岐にわたりサポートいただきました。深く御礼申し上げます。

若手会は今年度、「第 4 回海水・生活・化学連携シンポジウム」と「第 9 回学生研究発表会」を主催します。第 4 回海水・生活・化学連携シンポジウムは 10 月 26 日 (木)、27 日 (金) に岩手県宮古市の「宮古市立重茂小学校」と「宮古市民文化会館」で、第 9 回学生研究発表会は平成 30 年 3 月 8 日 (木) ~ 10 日 (土) に東京都の「たばこと塩の博物館」でそれぞれ開催予定です。詳細は本号、および次号の会告をご覧ください。多くの方のご参加をお待ちしております。



写真 1 : 集いの様子

\*室蘭工業大学 〒050-8585 室蘭市水元町 27-1

TEL : 0143-46-5747, E-mail: syama@mmm.muroran-it.ac.jp